

子年癸亥化書之三

子年重寶記是之四同錄

元服之儀

美

ニ
モ

中人

待

下中三卷

十四



秋

美人醉

齊

中

下



唐取之快

出之

四

中

卷三

下人如

四



國書

卷之五

年

牛人

靜

夫人

碎

四

回

美人遊

フナ

中人

叶

張

知



卷之五

李八女

十五

中人

六

下人

七

病人

十丁

八

回

病人

三十二丁

病人

十九丁

病人

十九丁

病人

十九丁

病人

十九丁

九

病人

二十丁

十

回

病人

二十七丁

病人

二十丁

病人

二十丁

病人

二十丁

病人

二十九丁

十

病人

二十丁

十一

病人

二十丁

一
之
勝
く
下
の
部

世に...

「え朕と下を多か

貴も縁今日沖え朕沙名

改其上沖か智國を相遠

沙継子秋万歳自出方

存し沙名量由月抵通也似

北条...

...

...

○今日今昔今物以舊日良辰吉日
○元服

煇冠
 煇爵
 之振
 和冠
 冠鑑
 未發
 ○小名
 主名

姓名
 字
 幼名
 氏名
 〇

華
付者○
そふみは
和文
和書
和文

上の家の智の目の在の録の幸のおの達の友のかの階の式の乾の固の親の笑の極の

深
 荷負
 親長
 心乃
 先

無
龍
薩
世
世
繼
盤
受

又任
荷餘恩○
繼
字繼
懷繼○
字繼遠
字名及

○
子秋可歌
身少事取
永志
志取高
張
張

しんどう
ひささきん
しをてう

二
八
力
工
号
七

下
 下
 下
 中
 一
 中
 中
 中

祝嘉
 祝嘉
 祝嘉
 嘉幸
 嘉幸
 嘉幸
 幸嘉

一、久
○方
合
振子
也ま
無中
害き
患う
と
振い
後し
に
信し
得も
○は
兵こ
を
治さ
ふ

往々後々
若くは
満公の
楚忽の
卒の
和の
葬

杜玄溪
李玄
王叔
陳公
葉玄
李玄
孫玄
孫玄

[illegible]

○すゝすゝ
郷志
郷情
早情
早志
早意
早意

ん
く
と
ふ
さ
き

下
之
不
能
以
此
爲
準

五
に
あ

携之
 与能
 以今
 之
 中
 之
 也

くわの秋に花をすくふは
早稲

もふ晩飯の如くもふ友の如く

○あやうき事 是等の事 少年 夢の如き事 ○猶人

越へて後 抽人 今も石 夢の如き事 ○夢

空の如き事 ○くわの秋 父母 夢の如き事 ○夢

夢の如き事 今も夢 夢の如き事 ○くわの秋 夢の如き事

夢の如き事 夢の如き事 ○夢の秋 夢の如き事 ○早晩 夢の如き事

二月五日

二回五

貴
物
意
私
像
次
身
成
長
法
也

一門共進落凡家

為泚悅泚音物私下密別

正氣至極也

○水^{ミヅ}上^上とん^{とん}とん^{とん}
 号^号上^上とん^{とん}
 ○水^{ミヅ}上^上とん^{とん}
 号^号上^上とん^{とん}
 ○水^{ミヅ}上^上とん^{とん}
 号^号上^上とん^{とん}

同
 連
 ○
 如
 人
 勢
 連
 ○
 門
 教
 教
 族
 族

人々
手扶
敬族
吟族
吟商
衰族
○紅蓮
強進
海永

[illegible]

○ 子 子
子 子
子 子
子 子
子 子
子 子
○ 子 子

子文
○
英和
○
子就
○
雖有
○
大悅
○
世鏡
○
西目

つみせのせうと
はん
てい

何陋哉

いんぎょ

新方之用者必曰

[illegible]

く河直那有いりあふたふ

沙ほあふちり力らふ天本

なく日とく好母とま色心

梅毛のね

○紅作付 船ののをくしむとてとくうのね 高は 舟舟 子付

○きこね きこね 跡式 跡式 ○きこね 高は 舟舟 子付

○きこね 高は 舟舟 子付

大ふにほ 高は 舟舟 子付

三
程
玄
中
明
大
學

卷之五

和
紐
在
調
昭
曉
奧
極



A detail of a calligraphic character from the 'Shan Shu' by Wang Meng. The character is rendered in a bold, expressive cursive style with thick, dark ink strokes on a light, textured background.

水に縋るも在能く
晩集候

逢ふ時由目出候をなほ

御化法多し候間お返し

御用未度なほ

○一草を枯く一草を枯く候

星一縁○七六を是○縁縁縁色縁五縁

嫁嫁嫁要○相調お是お是

○時々昨晩時々此等○奥様此等

平家直記

天竺

子月紅花と長母と存心

合の尸を彩母をわな

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

○ワ花を 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ 花れ

八

下

四回遊

為札屏流匙江以物尊人

私儼此度良媒也
生公迎迓

婦以織為生

像策下過分主極也

相傳以爲國仁也

卷之四

中
 中
 上
 ○
 松義
 下
 抽
 子候
 魚
 魚
 子
 ○

媒人
媒人
媒人
媒人
媒人
媒人
媒人

或人紅衣一族紅衣好媒佳媒良婚○迎酒婚
年荆婚

以
 野
 烟
 荒
 醜
 野
 細
 月
 ○
 多
 八
 中
 中

[illegible][illegible]

おはよう
おはよう

回
此
書
乃
自
親
書

[illegible]

回水...
...
...

増嫁...
...
...

母...
...
...

又...
...
...

礼...
...
...

○...
...
...

...

...

...

卷之四

卷之六

卷之四

三

五
六
七
八
九

三

一
 二
 三
 四
 五

秘傳の伝へるに之は少門者長

一主乃上乃下乃

○御代継 世續 家継 ○継 生 活 継 如 振

延 慶 継 載 生 介 延 延 勝 延 延 延 延 満 延

光 同 慶 初 方 底 西 京 西 京 ○河 上

も 上 入 松 公 希 ○乃 美 貴 西 京 今 嗣

口 男 子 子 男 子 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜

得 慶 〇 海 〇 如 経 方 一 快 〇 延 〇 延 〇 延 〇

色 色 〇 可 色 金 色 本 色 〇 〇 〇 〇 〇 〇

生 衣 初 衣 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

手本

衣

〇



Seal script of the character '心' (heart).



作



子



Calligraphic characters in cursive script, likely '却' (top) and '成' (bottom), rendered in dark ink on a light, textured background.

世

10

A close-up detail of the character '石' (stone) written in a bold, expressive cursive script. The ink is dark and textured, with visible brushstrokes and some white space within the character's form. The character is positioned vertically, with its top part slightly to the left and its base extending towards the right.

長

5

A close-up photograph of a single character from the 'Shi' (詩) section of the 'Shi Jing' (詩經). The character is written in a bold, cursive style with dark ink on a light, textured background. The brushwork is visible, showing the texture of the paper and the fluidity of the calligraphy.



五

子

○東序亭序
秦序
東序亭序
○東序亭序

生也

○東屋亭子泰壽重德妻府おと○後子如志
料人并重く慶悦孝り女○あま三方
母子あ方秋子○昔あはれ乃○あま
とあ健康つ事新い定ある○答
果粒○酒ふ尸と六等うけ元○産後
保赤山時吉○あ一才一肝要あ要
肝心ちや切

下
國方東序
美ノミ
所
如
子
孫
是
謂

子生却正同鄉友好一見

すく人へみまひる子息を養ひし

如人へみまひる子息を養ひし

如人へみまひる子息を養ひし

○人へみまひる子息を養ひし

○人へみまひる子息を養ひし

○人へみまひる子息を養ひし

○人へみまひる子息を養ひし

○人へみまひる子息を養ひし

大分政焼共公風能

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造 酒造

玄之玄之玄之

○隣
隣
隣
隣
隣
隣
○鄰
鄰

萬
 烟
 入
 舍
 雞
 長
 年
 在
 金
 方
 圓
 花
 乃
 之

秘藏
 法要
 入子
 玉印
 玉印
 玉印

環域
 環家
 ○
 除
 處
 入
 全
 曉
 為
 成
 者
 相
 不
 ○
 全
 心

[illegible][illegible]

無事
 主事
 主事
 主事
 主事
 主事
 主事

[illegible]

下^りへ^り地^ち火^か弟^{てい}女^{にょ}と^と物^{もの}也^{なり}

何^{なに}も^もわ^わる^ると^と道^{みち}東^{とう}ア^アの^のる^る

仁^に人^{にん}事^じは^はと^と世^よ屋^や東^{とう}ア^ア

○[○]と^と化^けと^と地^ちも^もと^と道^{みち}も^もと^と表^{ひょう}○[○]火^か東^{とう}

火^か火^かを^を焼^や竊^{せき}脂^し不^ふ言^{ごん}を^をと^とり^りの^の色^{しき}ハ^ハ人^{にん}と^と

○[○]と^と物^{もの}今^{いま}と^と是^{こゝ}と^と焼^やと^と理^りと^と鳥^{とり}

今日^{けふ}と^と色^{しき}と^と物^{もの}行^ゆ子^こ火^か○[○]付^つ何^{なに}の^の水^{みづ}也^{なり}

子^こ何^{なに}も^も風^{ふう}候^{こう}人^{にん}合^あ○[○]子^こ何^{なに}も^も何^{なに}れ^れ○[○]子^こ何^{なに}も^も

卷之四

④ 李氏名通

將長
商
商
商
須
暫

卷之四

5

27

212

1886

以

5

2

五

ひさし

〇
 〇

五

二の

中にと

三

七

五

九

5

A circular stamp or seal, possibly a library or ownership mark, located at the bottom center of the page. It appears to contain some text or a logo, but the details are too faded to discern.

卷之五

之

今

卷之五

て

卷之四

本

徐

三

Handwritten text, likely a signature or name, written vertically in cursive script.

卷之五

卷之五

通

雲

後通。

子

卷之四

卷之六

啟

里

教

前
後

子

四
五

回水枯柳を病草水に返

歴法を那病の口を返

性字は止とて解を返

好病はしとて解を返

末河をさかす

○時久病 身久 四病 大回 病 年病 ね年 ね日 ね

本伯秀也

○身之病 身久 四病 大回 病 年 病 ね 年 ね 日 ね

旬 病 年 ○退 屈 困 秀 倦 果 厭 果 陽 飽 飽 果 ○

星 建 志 迫 志 志 ○性 掌 性 心 不 後 年

安 志 安 疾 小 金 痔 年 免 業 免 業 積 病 積

疾 幸 已 安 疾 積 疾 小 金 高 嬰 幸 脫 ○ 忌 今 へ へ へ

○ 財 財 財 財 ○ 健 財 財 財 財 財 財 財 財 財 財

○ 病 病 病 病 ○ 本 本 本 本 ○ 何 方 方 方

何 地 地 地 地 地 地 地 地 地 地

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

一五

そのひ



2

○
年
風

偏頭痛

執字其

憚亡家以仍白為香因真金

子子王梅佛最良以

○
教父
教父
教父
教父
教父
教父
教父

氣低
金桂
家為
多花
多老
迺父
迺母
今多日大

今府吏
數君
起大人
○長
筆
○長
病
氣
比
字
分

[illegible]

通○
所
爲
天
如
日
如
日
非
白
如
日
夢

紀元

る
ま
は
し
を
と
り
て

葵お梅のゝ

○
マ母
ン母
メ母
モ母
ミ母
ム母
フ母

膝
人
今
令
令
道
道
過
少

舌母
來母
見母
寧母
並母
日母
支母
徹母
母

○ 子極
子之
子之
中
非
之
之
之
之
之
之

二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

八
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

貴一筆筆皆以心筆生

主父相果付為冲梅

尊書紙成下過今主極

年存以石為冲禮如斯

車度以悲惶極

回一筆筆皆以心筆生

まむ母を食ふは時をいふ

まむはむのうらやまのうらやま

市にゆくはまのうらやま

れいふのうらやま

市にゆくはまのうらやま

うらやまのうらやま

市にゆくはまのうらやま

うらやまのうらやま

市にゆくはまのうらやま

市にゆくはまのうらやま

○ 人のくさる人ふハ如極まらん

帝位より下りて

延

誰様馬車長崎沖

高

成下護白津見難

有使公不可過之なる

此越沖市之部三能様

此迄江岸之嚴三蛇様

沖板龜を頼上の

月日

沖板龜

壯愛

河東

判

工神の

来何日け地神のおる

いんそれよりこのかた
ともひらう社のま
にあらがうにことごと

うらなひ
うらなひ
うらなひ
うらなひ

以修く石おも創子

二かぬ子たる石積月

玉物市もて下以金おも

一人中毎々付る今

年と練物おも門二取

三つ

年七練地お花と八月

五女新能るん地

○来月手く重事日在付新○は元

は表田地高き高所高え山麓○神の祭礼

新記新の神記神祭○何年男○四年

先創先創先規主○石あも新道○一畝一

熊つ新新新新○子たき子と金子もさる

鳥女姫子○石新皆く是通て何と名○

あは知是さつ入来○余ああ一人も陽知るる

由場他あ○新入是付も中一初入事やん

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに
花をいかに愛するに

花をいかに愛するに

花をいかに愛するに

花をいかに愛するに

しん
く
く
○
性
面
○
風
吹
下
出

○ 稅 爲 稅 納 是 稅 納 ○ 無 虧 歟 無 辭 退 辭 義

陽公
金
金
○
東上
指
東
東入
東
東
東

[illegible]

見疑

子中書院記卷之四終

古今圖書集成